

事業計画書

① 団体名	学校法人ノートルダム清心学園清心中学校・清心女子高等学校
② 事業名	体験と学びの地域共育みらいプロジェクト
③ テーマ区分	番号： 2
④ 補助回数	<p>*同一事業における補助回数（年数）について、いずれかにチェック</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目</p>
⑤ 現状及び課題	<p>地域における探究活動のテーマ設定には「体験」が不可欠だが、実際に体験できる機会が少ない。また、親子での里山体験の需要が高まっているが、活動回数に限りがあり、希望者を受け入れきれない状況がある。さらに、公民館での科学イベント運営ノウハウが不足し、地域の教育資源を十分に活用できていない。</p>
⑥ 事業目的	<p>本事業は、地域資源を活用した科学教育および環境教育を推進し、子どもから大人までが共に学ぶ「共育」の場を創出することを目的としています。</p> <p>竹ワークショップでは、放置竹林の管理や竹資源の活用を通じて、参加者が環境保全の重要性を学びながら実践できる機会を提供します。親子での里山体験の場を設けることで、自然への理解を深め、地域の環境保全活動への関心を高めることを目指します。理界村小型版では、本校の中高生が主体となって地域の公民館で科学イベントを実施し、小学生に科学の楽しさを伝えます。実験や観察を通じて科学への興味を育むとともに、地域の学びの場を充実させることを目的とします。</p> <p>また、地域住民や教育機関との連携を深め、持続可能な運営体制を整えることを目指す。</p>
⑦ 事業内容	<p>※備中県民局補助対象事業について、位置づけ（狙い）、概要、受益者（対象者）、実施地域、実施方法などを記載すること</p> <p>① 竹ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的 <ul style="list-style-type: none"> 放置竹林の管理を通じた環境保全と、竹資源の活用を学ぶ機会の提供。 親子で自然体験をする場を確保し、里山の持続可能な活用と地域コミュニティの形成を促進。 中高生が地域資源を活かした探究活動を実践し、科学的思考力と課題解決能力を育む。 内容 <ul style="list-style-type: none"> 竹の間伐体験：放置竹林の手入れを行い、里山環境の維持管理の重要性を学ぶ。 竹細工・竹炭作り：竹を利用した工作や炭焼きを体験し、伝統的な竹資源活用の技術を学ぶ。 竹を使った食事：竹筒でご飯を炊くなど、竹の活用を身近に体験する。 探究学習活動：竹の特性を活かした実験や研究を中高生が企画し、参加者に科学的な視点を提供する。 対象者 <ul style="list-style-type: none"> 中高生、小学生、保護者、地域住民 実施地域・会場 <ul style="list-style-type: none"> 清心中学校・清心女子高等学校（竹林エリア含む） 実施方法・頻度 <ul style="list-style-type: none"> 月1回（年間12回開催） 定員を増やし、参加希望者をより多く受け入れるための運営拡充を検討。 協力 <ul style="list-style-type: none"> おかやま森づくりサポートセンター、地域住民有志

	<p>② 理界村小型版</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 目的 <ul style="list-style-type: none"> ○ 遠方の小学生にも「理界村」の学びを届けることで、地域間の教育格差を縮小。 ○ 地域の公民館を活用し、科学教育の普及と地域住民の教育活動への参加を促進。 ○ 中高生が科学教育の企画・運営に主体的に関わる機会を増やし、リーダーシップや説明力を養う。 ● 内容 <ul style="list-style-type: none"> ○ 理界村とは 本校が実施する科学教育イベントであり、中高生が主体となって企画・運営する体験型の科学教室。小学生が実験や観察を通じて科学に興味を持ち、学びを深める機会を提供する。 ○ 地域開催：7月に実施した「理界村」の一部ブースを備中地区の公民館等で開催。 ○ 科学実験ブース：中高生が準備・運営し、小学生が実験を体験。 ○ ワークショップ：地域の教育資源を活用し、理科実験を通じて科学的思考を促進。 ○ 地域住民の関与：地域住民がイベント運営に参加し、持続可能な科学教育の仕組みを構築。 ● 対象者 <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学生、保護者、地域住民 ● 実施地域・会場 <ul style="list-style-type: none"> ○ 新見市、高梁市、笠岡市の公民館 ● 実施方法・頻度 <ul style="list-style-type: none"> ○ 年3回（各地域で1回開催） ● 協力 <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域公民館、自治体、地元教育関係者
	<p>*天災地変、感染症等で事業が実施できない場合の対応</p> <p>事業の実施が困難な状況になった場合でも、科学教育や環境教育の機会を継続できるよう、以下の代替策を講じる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 少人数・分散開催の実施（最有力対応策） 2. 実験ハンドブックの作成と配布（平時から実施予定） 3. ライブ配信・アーカイブ動画の活用（事業の先進性向上のため挑戦）
<p>⑧事業の条件及び アピールポイント</p>	<p>先進性、先駆性、独創性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世代を超えた学びの場：親子・高校生・地域住民がともに学び合い、実体験を通じた教育を提供。 ・ 地域主体の運営を目指すモデル：学校・自治体・住民が連携し、地域資源を活かした教育活動を発展させる。 <p>備中地域への波及効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の教育資源を活用した学びの機会の拡充：竹林や公民館を活用し、持続的な学びの場を提供。 ・ 地域住民の科学・環境教育への関心向上：ワークショップを通じて、地域全体の学びの場の活性化につなげる。 ・ 地域イベント・教育活動の発展：理界村小型版の開催をきっかけに、地域の学校や団体が科学イベントを企画しやすくなる。 <p>その他、団体の持つ専門性やノウハウ等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 探究学習の実績：長年におたり、地域と連携した科学教育・環境教育を推進。 ・ 理界村の企画・運営ノウハウ：地域で科学教育イベントを実施し、高校生による企画・運営経験を蓄積。

<div>⑨今年度の事業による直接の結果 (アウトプット) 及びその評価指標・評価方法</div> <div>※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記載</div>	<div>1. 竹ワークショップ 【直接の結果 (アウトプット)】</div> <div><ul style="list-style-type: none">年間11回の竹ワークショップを実施 (月1回開催)。参加者年間のべ人数 1200名以上 (親子・地域住民・中高生を含む)。</div> <table><tr><th>評価指標</th><th>評価方法</th><th>目標</th></tr><tr><td>参加者数</td><td>ワークショップごとの参加者集計</td><td>年間のべ1100名以上</td></tr><tr><td>リピート参加率</td><td>過去参加者の継続参加割合の集計</td><td>30%以上のリピート参加率</td></tr><tr><td>ワークショップ実施回数</td><td>実施数の記録</td><td>年間12回</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> <div>2. 理界村小型版 【直接の結果 (アウトプット)】</div> <div><ul style="list-style-type: none">地域公民館3か所で理界村小型版を実施 (新見市・高梁市・笠岡市)。1回あたりの参加者 100名以上、年間合計 300名以上の参加を見込む。地域の教育機関・団体のブース出展数：各2ブース以上。</div> <table><tr><th>評価指標</th><th>評価方法</th><th>目標</th></tr><tr><td>参加者数</td><td>開催地ごとの参加者集計</td><td>年間300名以上</td></tr><tr><td>ブース出展数</td><td>開催地ごとの出店数集計</td><td>年間のべ12ブース以上</td></tr><tr><td>地域の教育機関・団体からの出展数</td><td>開催地ごとの出店数集計</td><td>年間6ブース以上</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table>	評価指標	評価方法	目標	参加者数	ワークショップごとの参加者集計	年間のべ1100名以上	リピート参加率	過去参加者の継続参加割合の集計	30%以上のリピート参加率	ワークショップ実施回数	実施数の記録	年間12回				評価指標	評価方法	目標	参加者数	開催地ごとの参加者集計	年間300名以上	ブース出展数	開催地ごとの出店数集計	年間のべ12ブース以上	地域の教育機関・団体からの出展数	開催地ごとの出店数集計	年間6ブース以上			
評価指標	評価方法	目標																													
参加者数	ワークショップごとの参加者集計	年間のべ1100名以上																													
リピート参加率	過去参加者の継続参加割合の集計	30%以上のリピート参加率																													
ワークショップ実施回数	実施数の記録	年間12回																													
評価指標	評価方法	目標																													
参加者数	開催地ごとの参加者集計	年間300名以上																													
ブース出展数	開催地ごとの出店数集計	年間のべ12ブース以上																													
地域の教育機関・団体からの出展数	開催地ごとの出店数集計	年間6ブース以上																													
<div>⑩今年度に期待される成果 ・効果 (短期アウトカム) 及びその評価指標・評価方法</div> <div>※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記載</div>	<div>事業参加者</div> <div>1. 竹ワークショップ 【期待される成果 (短期アウトカム)】</div> <div><ul style="list-style-type: none">参加者が親子での里山体験を通じて、自然の恵みを実感し、自然と共に楽しむ価値を理解する。中高生スタッフが里山の有効性を体感し、地域資源の活用の可能性を学ぶ。保護者が、活動する中高生の姿を通じて「身近なロールモデル」として認識し、子育てのヒントを得る (子育て支援の側面)。</div> <table><tr><th>評価指標</th><th>評価方法</th><th>目標</th></tr><tr><td>里山体験の満足度</td><td>参加者アンケート</td><td>「親子で里山の魅力を感じられた」と回答した割合80%以上</td></tr><tr><td>自然の恩恵の実感</td><td>参加者アンケート</td><td>「自然からの恵みを感じた」と回答した割合80%以上</td></tr><tr><td>中高生の学び</td><td>中高生スタッフの振り返りレポート</td><td>「里山の有効性を実感した」と回答した割合80%以上</td></tr><tr><td>子育て支援の効果</td><td>保護者アンケート</td><td>「スタッフの中高生を子どものロールモデルとして感じた」と回答した割合80%以上</td></tr></table>	評価指標	評価方法	目標	里山体験の満足度	参加者アンケート	「親子で里山の魅力を感じられた」と回答した割合80%以上	自然の恩恵の実感	参加者アンケート	「自然からの恵みを感じた」と回答した割合80%以上	中高生の学び	中高生スタッフの振り返りレポート	「里山の有効性を実感した」と回答した割合80%以上	子育て支援の効果	保護者アンケート	「スタッフの中高生を子どものロールモデルとして感じた」と回答した割合80%以上															
評価指標	評価方法	目標																													
里山体験の満足度	参加者アンケート	「親子で里山の魅力を感じられた」と回答した割合80%以上																													
自然の恩恵の実感	参加者アンケート	「自然からの恵みを感じた」と回答した割合80%以上																													
中高生の学び	中高生スタッフの振り返りレポート	「里山の有効性を実感した」と回答した割合80%以上																													
子育て支援の効果	保護者アンケート	「スタッフの中高生を子どものロールモデルとして感じた」と回答した割合80%以上																													

2. 理界村小型版

【期待される成果（短期アウトカム）】

- ・ 小学生の科学に対する興味・関心が向上する。
- ・ 地域の学校や団体が、科学イベントへ参加しやすい環境が整う。
- ・ 高校生スタッフが、企画・運営を通じてリーダーシップや伝える力を向上させる。

評価指標	評価方法	目標
小学生の科学への関心向上	参加者アンケート	「科学に興味があった」と回答した割合80%以上
参加団体の評価	参加団体アンケート	「企画・運営に参加しやすかった」と回答した割合80%以上
地域のブース出展意欲	公民館・団体へのヒアリング	「来年度もブースを出したい」との回答割合80%以上
高校生のリーダーシップ向上	高校生スタッフの振り返りレポート	「企画・運営を通じて成長を実感した」と回答した割合80%以上

事業実施団体

1. 竹ワークショップ

- ・ 参加者保護者を中心に、運営に携わるメンバーを増やし、持続的な活動の基盤を作る。

評価指標	評価方法	目標
運営スタッフの増加	新規運営メンバー	年間5名以上

2. 理界村小型版

- ・ 高校生スタッフが、他の学校や地域の大人と協働する経験を通じて、科学イベントの企画・運営スキルを向上させる。
- ・ 理界村小型版の実施を通じて、科学教育に関わる地域ネットワークが強化される。

評価指標	評価方法	目標
高校生の企画・運営スキル向上	高校生スタッフの振り返りレポート	「運営経験が成長につながった」と回答した割合80%以上
地域のネットワーク強化	参加団体・自治体との協議回数	年3回以上

備中地域

1. 竹ワークショップ

- ・ 竹ワークショップを通じて、備中地区に「里山を体験できる場所と機会」を提供し、子どもから大人までが竹遊びや竹細工を楽しめる場を作る。
- ・ 都市部ではなかなかできない竹を使った遊びや伝統的な竹細工の体験を通じて、地域の文化を次世代へ継承する機会を創出する。
- ・ 竹林の整備を進めることで、放置竹林の問題を地域で共有し、環境保全への関心を高める。

	評価指標	評価方法	目標
	里山体験の提供	参加者アンケート	竹で遊ぶ、竹細工をする機会が増えた」と回答した割合80%以上
	竹の活用に対する関心	参加者アンケート	「竹を使った遊びや飾り作りをまた体験したい」と回答した割合80%以上
	竹林の管理状況	整備された竹林の面積記録	年間100㎡以上
	2. 理界村小型版		
	● 公民館の活用により、学校以外での学びの場の価値が住民に認識される。		
	● 科学イベントを経験した地域の学校・団体が、今後の科学教育活動を継続・発展させるきっかけを得る。		
	評価指標	評価方法	目標
	公民館活用の意識向上	公民館関係者ヒアリング	「今後も科学教育の場として活用したい」との回答割合100%
	参加団体の科学イベント継続意欲	参加団体ヒアリング	「今後も科学イベントを実施したい」との回答割合80%以上
⑪将来的に期待される成果 ・効果 (中・長期アウトカム) ※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記載	事業参加者		
	1. 竹ワークショップ 親子での自然体験を通じて、竹の活用方法や里山の魅力を学び、日常の遊びや創作活動に取り入れる風土が生まれる。これにより、竹文化が次世代に継承され、地域全体の自然との関わり方が深まる。		
	2. 理界村小型版 科学実験や探究活動を体験した子どもたちが、科学への興味・関心を持ち続け、自ら学びを深める姿勢を育む。地域での科学教育の機会が増えることで、子どもたちの探究心が養われる。		
	事業実施団体		
	1. 竹ワークショップ 保護者や地域住民の参画が増え、運営体制が安定する。地域主体での竹林整備や竹を活かした活動が定着し、持続可能な取り組みとして発展していくことが期待される。		
	2. 理界村小型版 高校生が科学イベントの企画・運営を担うことで、科学教育の担い手としての意識が育つ。地域の教育機関との連携が進み、科学イベントが継続的に実施される仕組みが構築される。		
	備中地域		
	1. 竹ワークショップ 竹の活用を通じた地域活動が活発になり、放置竹林の問題が地域ぐるみで取り組まれるようになる。地域のイベントでも竹を活かした取り組みが増え、里山の価値が再認識される。		
	2. 理界村小型版 科学教育の拠点として公民館や学校の活用が進み、地域での学びの機会が充実する。科学イベントが定着し、地域の学校や自治体が協力して子どもたちの探究活動を支援する環境が整う。		
	⑫事業継続化に向けた取組及び事業展開の予定 本事業は、地域の教育資源を活かし、持続可能な学びの場を提供するとともに、備中地域および他地域への展開を視野に入れた発展を目指す。安定的な運営体制を維持しつつ、地域団体の参画促進、広報・デジタル化、資金確保の強化を進める。		

(資金確保の見通し等)	<p>(1) 広域展開と発展の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> 竹ワークショップ・理界村小型版の活動を、備中地域内の他の学校・公民館へ拡充し、地域全体での実施を推進する。 他地域の団体や教育機関へ事業のノウハウを共有し、科学教育・環境教育の普及を促す。 竹ワークショップは地域団体や参加経験者が主体的に運営できる仕組みを強化し、理界村小型版では高校生が中心となる運営体制を継続する。 <p>(2) 資金確保の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> 竹ワークショップでは、現在参加費500円を徴収しており、参加者から理解を得られている。今後も最低限の参加費を設定し、安定した資金確保を図る予定である。 理界村小型版は、当面は助成金や自治体の支援を活用しつつ、企業や大学との協力による資金確保を進める予定である。 将来的には、竹ワークショップのように参加費を設定し、参加者の理解を得ながら持続的な運営を目指すことも検討している。 地域の協力と参加者の理解を基盤に、事業の継続と発展を図る予定である。 <p>(3) 広報の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 公式Webサイト・SNSでの発信を強化し、事業の認知度を向上させる。 自治体の広報誌や公民館での告知を活用し、参加者を増やす。 一部の活動をアーカイブ動画として公開し、他地域への展開を支援する。
-------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<記入上の注意事項>

- 各項目は、簡潔かつ明瞭に記入してください。
- 「④補助回数」欄の2回目は、前年度に採択された事業を今年度も継続して実施する場合に選択ができます。
- 「⑤現状及び課題」欄は、事業実施の要因となる地域課題や問題点、社会的背景等について記入してください。なお、根拠となる統計データや当事者の声などがあれば、それも示してください。
- 「⑥事業目的」欄は、事業を通じて実現したいこと、目指す将来的な姿（社会、経済、生活、環境等）について、「⑤現状及び課題」、受益者（対象者）等を踏まえて記入してください。
- 「⑦事業内容」欄は、課題解決や「⑥事業目的」における位置づけ（狙い）とともに、概要、受益者（対象者）、実施地域、実施方法などを事業項目ごとに具体的に記入してください。また、天災地変、感染症等で事業が実施できない場合の対応（代替案の検討、事業縮小、事業中止等）についても併せて記入してください。なお、事業が複数の場合は、それぞれの事業ごとに内容を記入してください。
- 「⑧事業の条件及びアピールポイント」欄は、事業条件としている広域性又は先進性、先駆性、団体の持つ専門性やノウハウ等のアピールポイントについて具体的に記入してください。なお、先進性、先駆性は、他地域での先進例や成功例等もあれば、それも参考として記入してください。
- 「⑨今年度の事業による直接の結果（アウトプット）及びその評価指標・評価方法」欄は今年度の活動計画及びその評価指標・評価方法を記入してください。「⑩今年度に期待される成果・効果（短期アウトカム）及びその評価指標・評価方法」欄は事業実施により得られる今年度の利益や変化及びその評価指標・評価方法について記入し、「⑪将来的に期待される成果・効果（中・長期アウトカム）」欄は、事業を継続して行うことで、将来的に得られる利益や変化について記入してください。なお、事業が複数の場合は、⑨、⑩、⑪は事業ごとに分けて記入してください。
- 「⑫事業継続化に向けた取組及び事業展開の予定（資金確保の見通し等）」欄は、「⑥事業目的」や「⑪将来的に期待される成果・効果（中・長期アウトカム）」を踏まえ、翌年度以降に実施する予定の事業内容、組織体制、財源確保の手法、事業継続の工夫等について記入してください。
- 記入箇所が不足する場合は、必要に応じて行挿入等を行ってください。